

5. ICT 共通基盤技術の重点化

(重点化整理のフレームワーク)

- ここでは、ICT 全体俯瞰図の「技術領域」毎の重点化を整理するため、5 つの「技術側の視点からの評価軸」と、2 つの「ニーズ側の貢献の視点からの評価軸」の、計 7 つの評価軸のごとに整理し、基本機能の技術領域と 7 つの評価軸とのマトリックスで整理する。
- 「技術側の視点からの評価軸」については、現状技術の限界を超えるブレークスルーがあるか、信頼性、省エネ性、先端性等のインパクトを示す「革新性」、複数分野のサービスやシステムのコア技術であることを示す「基盤性」、2020 年頃までに実用化されるかを示す「実現性」、国際ベンチマークを参考にして現在強みを有するか、あるいは今後強くなることが期待できるかを示す「国際競争力強化方策の妥当性」、国策として研究開発を実施する必要性を示す「官民の役割分担、連携性の妥当性」、から構成される。
- 一方、「ニーズ側の貢献の視点からの評価軸」については、第 4 期計画の第 II 章（復興・再生、グリーンイノベーション、ライフイノベーション）、及び第 III 章（我が国が直面する重要課題）の「社会的課題解決への貢献度」と、「イノベーション実現に向けた課題の明確化」からなる。「イノベーション実現に向けた課題の明確化」については、対象技術の実用化を図る場合の実施主体の候補が明確になっているか、開発支援及び対象技術を普及させる上での課題（技術的課題から規制等まで幅広く想定される課題も含む）が明確化の観点を含む。

(今回の ICT 共通基盤技術の重点化整理の位置づけ)

- ICT・WG においては、7 つの評価軸の記載内容を基に、特定のどの技術が重点化対象となるか決めるのではなく、その判断に必要となるポートフォリオ的な整理をするものである。なお、今後、特定のどの技術を重点化するかについては、ICT・WG の検討状況及び検討結果を課題対応の各戦略協議会等へ報告・提案し、最終的には、必要に応じて、双方で検討した上で各戦略協議会等が解決すべき課題とともに特定すべきものであると考える。

(ICT 共通基盤技術の重点化)

- 「課題解決の貢献に関する分類（俯瞰図）」（図 5-1）
- 「ICT 技術の概要（説明）」（図 5-2）
- 「ICT 共通基盤技術の重点化整理表」（別添 2）